

# Mobility Express な 内部 DHCP

## 目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[設定](#)

[GUI 設定](#)

[管理ネットワークのための設定 DHCP スコープ](#)

[WLAN のための設定 DHCP スコープ](#)

[CLI 設定](#)

[管理ネットワークのための設定 DHCP スコープ](#)

[WLAN のための設定 DHCP スコープ](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

## 概要

この資料は方法のガイドをバージョン 8.3.102.0 の Access Point ( AP ) 3802 の Mobility Express の内部 ダイナミック ホスト コンフィギュレーション プロトコル サーバを ( ME ) イネーブルに設定する提供したものです。

## 前提条件

### 要件

Cisco は Mobility Express DHCP プロトコルの基本的な知識があることを推奨し。

### 使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は AP 3802 ソフトウェア バージョン 8.3.102.0 に基づいています。

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな ( デフォルト ) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

## 設定

注: あらゆる Virtual Local Area Network ( VLAN; バーチャル LAN ) のために内部 DHCP を使用することは管理ネットワークの DHCP プールを持って必須 ME の DHCP サーバ プロセスを開始するためにです。これはダミーのスコープである場合もありましたり有効になる

必要があります。

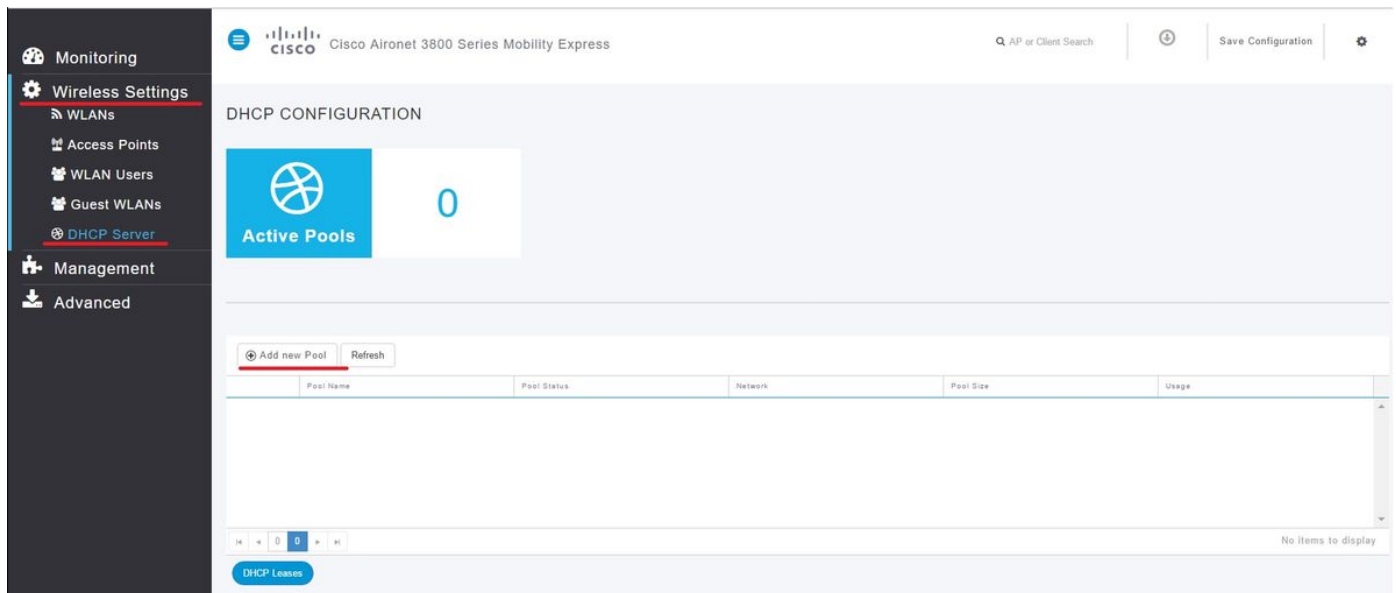
## GUI 設定

### 管理ネットワークのための設定 DHCP スコープ

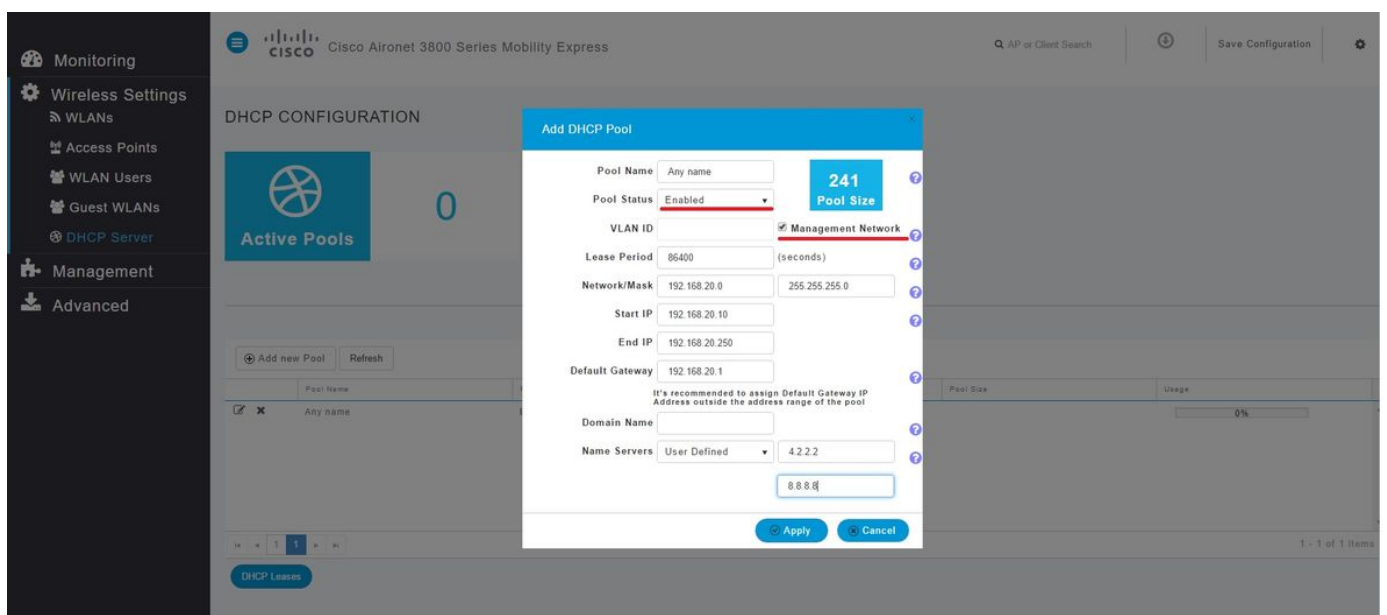
このスコープはマネージメントVLANでIPアドレスを提供します。これが初期設定ウィザードで既に作成されたらこれらのステップはスキップすることができます。

注: AP の VLAN ( 管理ネットワーク VLAN ) にクライアントが ( またはワイヤレス配線される ) 既にネットワークにもう一つの DHCP スコープがあっても ME DHCPプールから IP アドレスを受け取るかもしれないある場合ことに注意して下さい。

ステップ 1.新しいプールはワイヤレス設定 > DHCPサーバ > Add にナビゲートします。



ステップ 2.情報を入力して下さい。



これらのフィールドは必須です:

- **プール名:** この特定のスコープのための識別子としてだけ動作する名前。
- **管理ネットワークが有効になる**とき **VLAN ID** はネイティブ VLAN に、DHCP スコープ自動的に割り当てられます。
- **ネットワーク/マスク:** から IP アドレスが割り当てられるネットワーク ID を入力して下さい。第 2 フィールドタイプ 10進法式のそのネットワークのためのマスク。
- **開始する IP:** クライアントに渡される最初 IP。
- **端 IP:** クライアントに割り当てられるべきこのプールからの最後の IP アドレス。
- **デフォルト ゲートウェイ :** デフォルトゲートウェイIPアドレス。

この例では、AP は 192.168.20.10 から 192.168.20.250 にネイティブ VLAN (管理ネットワーク) の IP アドレスを割り当てます。

管理ネットワーク チェックボックスを有効にするために確認し 『Apply』 をクリックして下さい。

注: 開始するおよび端 IP の中では範囲はそのネットワークのブロードキャスト IP アドレスおよびデフォルト ゲートウェイを含まなくて確実です。

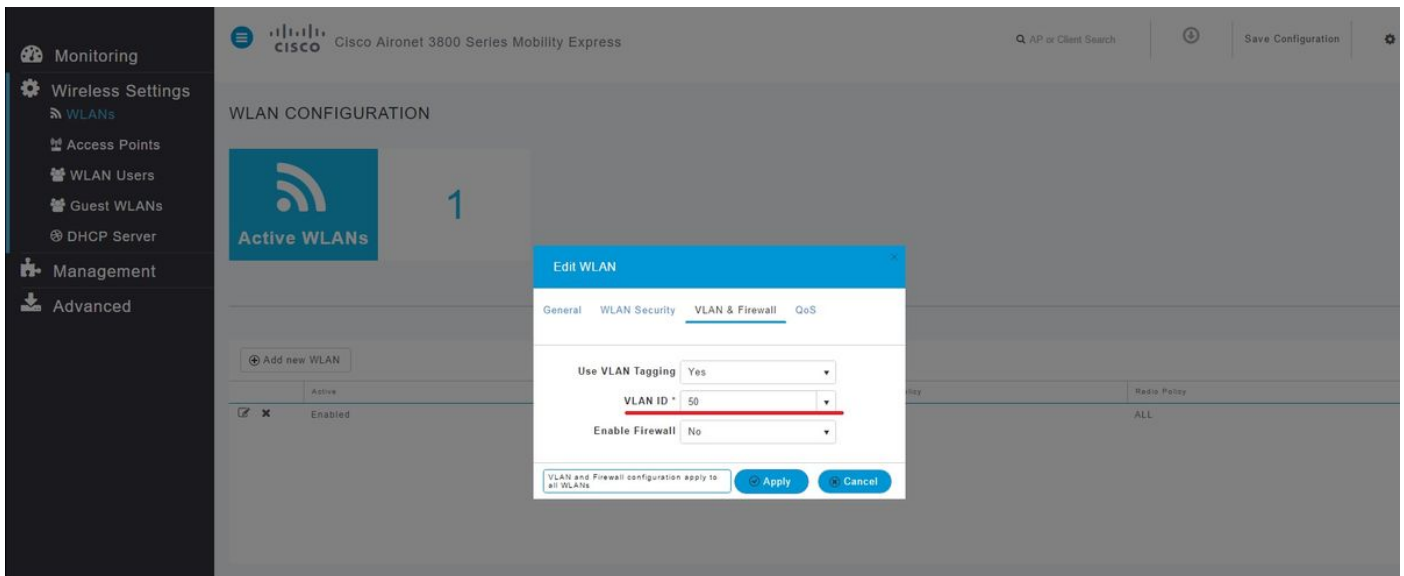
## WLAN のための設定 DHCP スコープ

クライアントのための内部 DHCPプールは Service Set Identifier (SSID) に割り当てられる VLAN へバインドである必要があります。

ステップ 1. DHCP スコープ SSID の VLAN ID を確認して下さい。

ワイヤレス設定 > WLAN へのナビゲート。既に存在する SSID がまたは新しいものを作成するために 『Edit』 を選択する場合、WLAN を 『Add New』 をクリックして下さい。VLAN 及びファイアウォールへのナビゲート。この VLAN ID は DHCPプールで使用される VLAN ID を一致する必要があります。

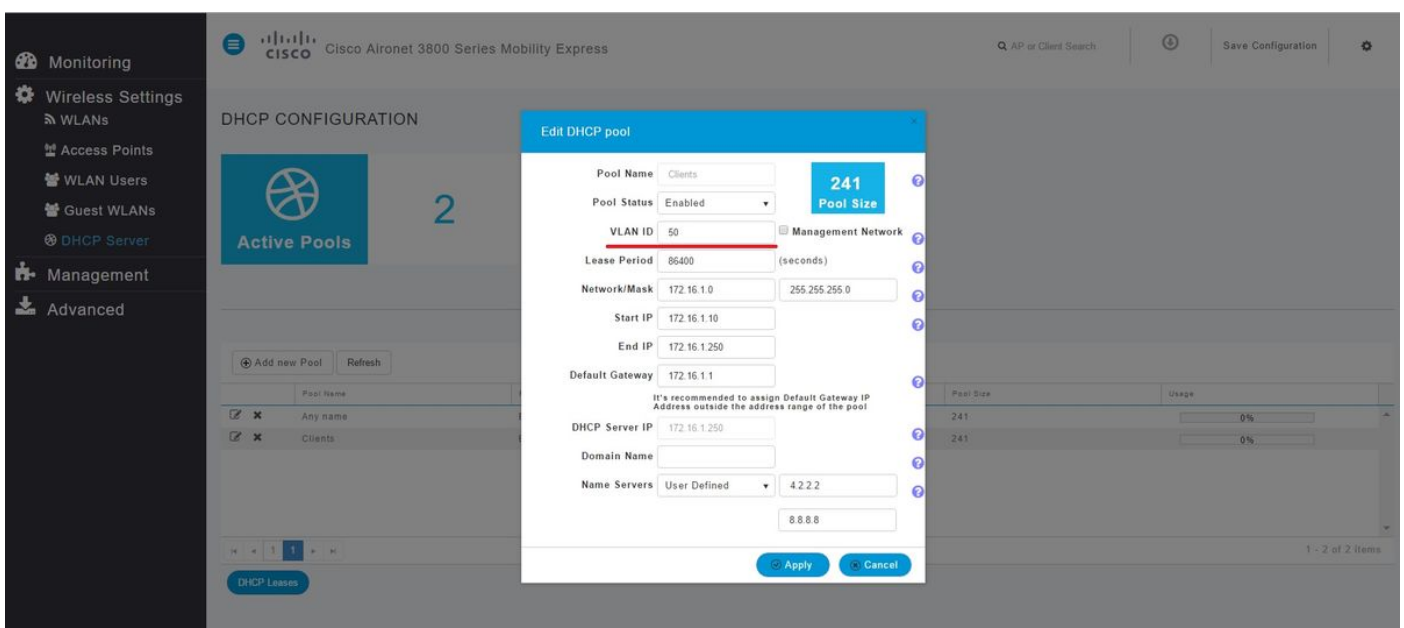
この例では SSID は VLAN 50 に割り当てられます、従って DHCP スコープは同じ VLAN ID 50 に割り当てる必要があります。



ステップ 2. DHCPプールを作成して下さい。

新しいプールはワイヤレス設定 > DHCPサーバ > Add にナビゲートし、情報を入力します。

同じ Mandatory フィールドは**管理ネットワーク**のための今回チェックボックスがチェックされるべきではないこと相違点と必要、です。Wireless Local Area Network (WLAN) によって使用される VLAN に対応する VLAN ID を入力して下さい。



## CLI 設定

これらのコマンドはに使用されます:

- DHCPプールを作成して下さい
- ネットワークを定義し、覆って下さい
- アドレスプール 範囲を定義して下さい
- VLAN ID を定義して下さい
- デフォルトルータを定義して下さい

- DNSサーバを定義して下さい
- DHCPプールを有効に して下さい

注: CLI によって 3 つまでの DNSサーバを定義することは可能性のあるです。

## 管理ネットワークのための設定 DHCP スコープ

管理の DHCPプールを作成するためにこれらのコマンドを実行して下さい:

```
config dhcp create-scope <scope name>
config dhcp network <scope name> <network ip> <mask>
config dhcp address-pool <scope name> <start ip from pool> <last ip from pool>
config dhcp vlan native <scope name> enable
config dhcp default-router <scope name> <default router ip>
config dhcp dns-servers <scope name> <DNS server 1> <DNS server 2> <DNS server 3>
config dhcp enable <scope name>
```

## WLAN のための DHCP スコープを設定して下さい

クライアントのための DHCP を作成するために同じステップは必要変更彼 VLAN ID WLAN からの VLAN ID を一致するためにでありではない。

```
config dhcp create-scope <scope name>
config dhcp network <scope name> <network ip> <mask>
config dhcp address-pool <scope name> <start ip from pool> <last ip from pool>
config dhcp vlan id <scope name> <vlan id>
config dhcp default-router <scope name> <default router ip>
config dhcp dns-servers <scope name> <DNS server 1> <DNS server 2> <DNS server 3>
config dhcp enable <scope name>
```

## 確認

このセクションでは、設定が正常に機能していることを確認します。

```
show dhcp summary
show dhcp detailed <scope name>
```

## トラブルシューティング

このセクションでは、設定のトラブルシューティングに役立つ情報を提供します。

クライアントを解決するためこれらのデバッグ・ コマンド。 デバッグ出力はクライアントおよび DHCPプロセスの状態を示したものです。

```
debug client <mac address>
debug dhcp packet enable
```

デバッグ クライアント出力を理解する簡単な方法に関してはワイヤレス デバッグ アナライザ ツールを使用して下さい: [ワイヤレス デバッグ アナライザ](#)。